

■**山本芳翠** 洋画家。初めてパリ画壇に認められた日本人。滞欧作品積んだ船の沈没にもめげず、黒田清輝を世に。
やまもとほうすい
国定忠治磔・1850＝ 美濃恵那郡明智村宇野志で、農業と養蚕を営む山本権八の長男に生まれる。本名は為蔵・為之助など。

ペリー来航・1853＝ 3歳：

安政の大獄・1859＝ **9歳**：
桜田門外変・1860＝10歳：この頃から絵が好きで、絵を見れば手当たり次第模写したという。

薩摩藩士密航1865＝15歳：ふと手にした「北斎漫画」に啓発されて画家を志し、

明治維新・・1868＝**18歳**：
_京都で、小田海僊の門人久保田雪江に南画を学ぶうち、
_南宗画を勉強するため中国に行こうと、

廃藩置県・・1871＝21歳：_横浜に出るも、渡航の世話をしてくれる人はなく困窮、
学問のすすめ1872＝22歳：_五姓田芳柳の家の前に飾られていた横浜絵に感心し、洋画に転向。入門して芳翠と号する。芳柳の長男義松に同行して、その師ワグマンの西洋画にも触れ、

明治6年政変 1873＝23歳：東京に転じ、

初の民間工場1875＝25歳：この頃には津田仙の学農舎に寄留し、_緻密な写实的描法による肖像画で一家を成すまでになる。

三つの反乱・1876＝26歳：_工部美術学校の開設とともに入学し、フォンタネージの指導を受けるが、

西南戦争・・1877＝**27歳** ***中退。第1回内国勲業博覧会西洋画部門で「勾当内侍月詠図」が花紋賞、宮内庁買い上げの荣誉。**

大久保暗殺・1878＝28歳：「天女」。津田仙と岸田吟香の斡旋で、_パリ万国博事務局雇として松方正義に従い、フランスに渡り、
_エコール・デ・ボザールで古典派のジェロームに絵画技法を学ぶ。

・・・・・1880＝30歳：「裸婦」、

明治14年政変1881＝31歳：

新体詩抄・・1882＝32歳：「西洋婦人像」のモデルは女流作家ジュディット・ゴートイエといわれ、
_ユゴー、ゴートイエらの文学者たちとも親交、当時のパリ画壇で認められていた唯一の日本人画家であり、
また、多芸で料理も上手く、下宿には在仏日本人が集まり、
_ジョルジュ・プティ画廊で個展。法律学で留学中の黒田清輝の画才を評価して、画家へ転身させる。

内閣発足・・1885＝35歳：

帝国大学始・1886＝**36歳**：

国民之友始・1887＝37歳：***帰国に際し、フランスで造船されて日本に回航する巡洋艦{敵傍}に作品を積み込むが、同艦が南シナ海で沈没して滞欧時代の作品は全て消失という不幸のなか、版画家合田清とともに画塾{生巧館}を主宰。**

帝国憲法発布1889＝39歳：**_浅井忠・小山正太郎らと明治美術会を創立し、以後ほぼ毎回、この展覧会に出品。**
自らは、黒田清輝までの繋ぎのつもりだったらしく、'お天道さまが出たら(黒田が帰ってくれば)、行燈は要らなくなる'と語っていたという。

大本教・・・1892＝42歳：「十二支」シリーズ、

郡司千島探検1893＝43歳：第5回明治美術会展に「猛虎一声山月高」出品。

日清戦争始・1894＝44歳：黒田がフランスから帰国すると_{生巧館}を黒田にゆずり、京都に仏事博物館を建て、油彩画による釈迦の生涯を展覧し、その入場料で洋画家を志す若者を留学させようとするなどするがいずれも実らず、東京に戻り、日清戦争に画家として従軍。

日清戦争終・1895＝**45歳**：帰国し、第7回明治美術会展に「浦島図」出品。

白馬会・・・1896＝46歳：***明治美術会を脱退し、黒田が結成した白馬会に参加。**

日比谷公園・1903＝53歳：演劇や歌劇における洋風舞台装置の制作を行ない、

日露戦争始・1904＝**54歳**：_日露戦争にも画家として従軍し、

日露戦争終・1905＝55歳：

満鉄発足・・1906＝56歳：脳溢血により自宅で_没した。